

令和5年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和5年度全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



「頑張ったね」の、種をまこう。

令和5年10月
神奈川県教育委員会

*本資料に掲載した数値については、政令市を含めた全県のデータとしている。

本資料作成の趣旨

全国学力・学習状況調査の目的のひとつに、

学校が、本調査結果を活用することで、日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、その充実と改善を図ること

とあります。

各学校においては、自校の結果を調査対象の学年や教科だけではなく、全教職員で共有し、学校全体で教育活動の充実・改善のために活用することが大切です。

そこで、県教育委員会では、各学校において本調査結果を効果的に活用できるよう、県内公立小・中学校の結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として整理しました。

さらに、重点事項の各項目を踏まえた県内公立小・中学校の取組の好事例を取材・収集し、「学びの充実・改善のヒント」としてとりまとめました。

市町村教育委員会及び学校においては、児童・生徒の豊かな学びを実現するために、本調査結果を有効に活用し、教育活動の質のさらなる向上に取り組むようお願いします。

本資料の構成

I 教科に関する調査結果の概要	P. 4
II かながわの学びの充実・改善のための重点事項	P. 11
III 学びの充実・改善のヒント	P. 13
1 子どもたちの学びに対する意欲の向上	P. 13
2 自分の考えを文章等で表現する力の向上	P. 17
3 授業改善の推進	P. 25
4 地域と学校が連携・協働した教育活動の推進	P. 29
<参考情報>	P. 33



教職員の皆さんへ

各学校で行っている、児童・生徒の実態をきめ細かく把握する取組は、様々な場面での指導に生かされ、小・中学校9年間で一貫した指導のポイントを共有することにつながっています。

今後、あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

本資料の活用にあたって

次に示した各章の【活用例】を参考にしながら、各学校の実情に応じて本資料をご活用ください。

I 教科に関する調査結果の概要

小学校の国語、算数と、中学校の国語、数学、英語の教科に関する調査の結果について、全県の傾向を取り上げ、示しています。

- 【活用例】
- ・校内の教科部会において、自校の調査結果を分析
 - ・調査対象以外の教科の教員も、一緒に結果を分析
 - ・小・中学校合同の研修において、一緒に結果を分析
 - ・学校運営協議会等での活用

など

II かながわの学びの充実・改善のための重点事項

教科調査結果と質問紙調査結果を総合的に分析し、次の4点に整理しました。

- 1 子どもたちの学びに対する意欲の向上
- 2 自分の考えを文章等で表現する力の向上
- 3 授業改善の推進
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点
 - ・指導と評価の一体化
 - ・教科等横断的な学習
- 4 地域と学校の連携・協働の推進

III 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「学びの充実・改善のヒント」として取組事例をとりまとめ、示しています。

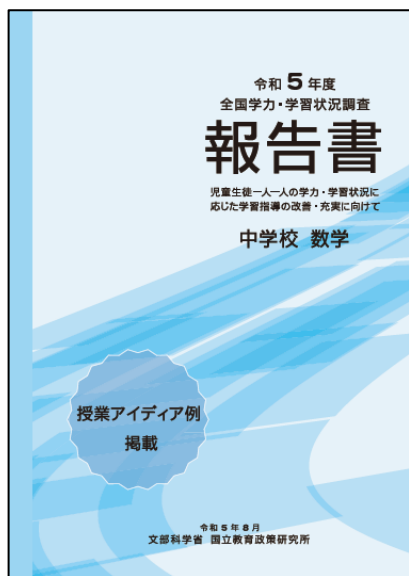
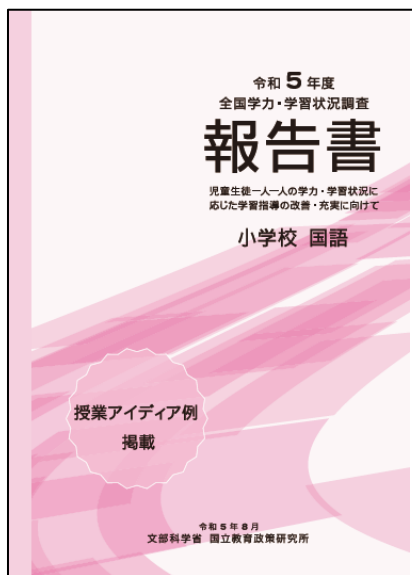
- 【活用例】
- ・児童・生徒の実態を踏まえた単元の構想
 - ・小・中学校間で連携した授業研究の協議
 - ・学校運営協議会等での活用

など

〈参考情報〉

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

調査結果の分析にあたっては、文部科学省 国立教育政策研究所が公開している「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書」も併せて御活用ください。



■ 「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書」について



<https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/>

令和5年度全国学力・学習状況調査の概要

- 調査期日 令和5年4月18日（火）
※英語「話すこと」調査は、同日～5月26日（金）の間で指定された日
- 対象者 小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒
- 集計学校数、児童・生徒数
 - ・参加校 小学校 855校、中学校 413校
 - ・参加者 小学校 約6万9千人、中学校 約6万人
- 調査事項
 - ・教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語）
 - ・学校質問紙調査
各学校を対象とした、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問（小学校81項目、中学校89項目）
 - ・児童・生徒質問紙調査
調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問（小学校63項目、中学校80項目）
- 留意事項
本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。
<出典>令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

I 教科に関する調査結果の概要

平均正答数・平均正答率

* 県の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供された。

令和5年度	小学校調査				中学校調査							
	国語		算数		国語		数学		英語			
	(14問)		(16問)		(15問)		(15問)		(17問)		(5問) 話すこと	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	9.4	67.2	10.0	62.5	10.5	69.8	7.6	51.0	7.7	45.6	0.6	12.4
神奈川県	9.3	66	10.1	63	10.4	70	7.8	52	8.6	50	0.8	15
全国との差	-0.1	-1.2	0.1	0.5	-0.1	0.2	0.2	1.0	0.9	4.4	0.2	2.6

(文部科学省令和5年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】全国平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。
<出典>令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

自校のデータを記入し、県や全国の結果と比較するなどして、振り返ってみましょう。
また、国語と算数・数学は、他校種の結果も見てみましょう。

小学校 国語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容					評価の観点	正答率(%)			無解答率(%)					
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	県	全国	自校	県	全国	自校
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと										
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	5・6 ア					○				65.1	64.7		3.1	1.8	
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く					5・6 エ		○			25.6	26.7		8.3	7.1	
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	5・6 エ						○			53.1	52.8		7.2	4.8	
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)	5・6 エ						○			69.2	72.6		10.1	6.7	
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	5・6 ウ						○			91.4	93.1		1.8	1.0	
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	5・6 カ						○			80.5	79.8		2.9	2.0	
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する					3・4 ウ		○			89.8	90.0		2.1	1.2	
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する					5・6 ウ		○			67.9	67.4		2.4	1.4	
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	5・6 イ						○			63.5	62.0		2.6	1.6	
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く					5・6 オ		○			53.4	56.2		11.0	8.5	
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する				3・4 エ			○			72.5	73.6		6.1	3.7	
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する				3・4 エ			○			73.2	74.0		6.7	4.1	
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く				5・6 エ			○			65.5	70.2		19.3	14.3	
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	5・6 キ						○			56.4	57.6		13.9	9.5	

自校のデータを
記入しましょう。

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・

「中学校 国語」は・・・

中学校 国語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	県	全国	自校	県	全国	自校
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する				1 ア				○		88.9	87.5		0.1	0.1	
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する		1 ア						○		65.0	65.1		0.2	0.2	
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する				1 エ				○		76.4	76.6		0.3	0.2	
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く				1 エ				○		82.2	82.5		10.4	10.8	
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	1 ウ							○		91.2	91.1		0.2	0.2	
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する						2 エ		○		64.5	63.0		0.5	0.4	
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する						1 ア		○		75.5	74.2		0.4	0.3	
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く			2 エ				2 オ	○	○	65.7	67.5		3.8	3.9	
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する						1 エ		○		55.8	54.3		0.6	0.6	
3二	漢字を書く（おし量って）	2 ウ							○		41.5	43.9		12.3	10.7	
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く		2 ア						○		62.3	61.8		2.1	2.1	
3四	「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く						1 ウ		○		73.5	72.1		10.0	10.2	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）			1 ア					○		77.0	82.5		3.9	3.6	
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）			2 イ					○		72.4	74.1		4.7	4.8	
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く							1 エ	○		51.2	50.0		19.8	20.7	

自校のデータを
記入しましょう。

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・
「小学校 国語」は・・・

小学校 算数

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	県	全国	自校	県	全国	自校
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める				4 (1) ア(ア)		○		93.3	93.5		1.2	0.8		
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く				5 (1) イ(ア)		○		89.2	88.5		1.3	1.0		
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、4脚の重さの求め方と答えを書く				5 (1) イ(ア) 5 (2) イ(ア)		○		56.2	55.5		3.5	3.4		
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	3 (3) ア(ア)					○		78.7	80.8		1.4	1.2		
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ		4 (1) ア(イ)				○		61.1	59.8		1.0	0.7		
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く		2 (1) ア(イ) 4 (1) ア(ア)				○		87.5	87.2		3.6	2.9		
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く		3 (1) ア(ア) 5 (1) ア(イ)				○		28.2	24.9		4.5	3.7		
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く		5 (3) イ(ア)				○		23.3	20.8		4.9	4.0		
3 (1)	2種類の辞書を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	4 (6) イ(ア)					○		69.9	70.3		1.8	1.4		
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	3 (5) ア(イ) 4 (4) ア(エ) イ(ア)					○		57.5	56.7		4.3	4.0		
3 (3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	4 (6) ア(ア) 4 (7) ア(ア)					○		69.9	72.4		3.1	2.5		
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	3 (4) イ(ア) 4 (3) ア(ア)					○		49.9	47.6		5.0	3.9		
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ			5 (3) ア(イ)			○		50.5	46.0		3.1	2.4		
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	4 (2) ア(イ)			3 (1) ア(ア)		○		76.9	75.7		5.1	4.3		
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く				3 (1) ア(イ) イ(ア)		○		54.3	56.2		16.0	13.8		
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ				4 (1) ア(ア)		○		64.5	64.6		5.9	4.9		

自校のデータを記入しましょう。

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・
「中学校 数学」は・・・

中学校 数学

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数 と 式	B 図 形	C 関 数	D デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	県	全 国	自 校	県	全 国	自 校
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	1(1) ア(ア)				○			48.9	46.1		0.2	0.1	
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	2(1) ア(ア)				○			83.5	80.5		3.4	4.0	
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ		1(2) ア(ア)			○			32.5	30.4		0.8	0.8	
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ			1(1) ア(イ)		○			42.2	42.8		0.6	0.5	
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める				1(1) ア(ア)	○			45.2	46.1		12.9	11.0	
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	1(1) ア(ウ)				○			89.4	88.9		2.3	2.4	
6(2)	はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ(イ)				○			61.2	58.8		9.5	10.6	
6(3)	はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	2(1) イ(イ)				○			43.2	40.9		23.5	24.7	
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める				2(1) ア(ア)	○			62.9	65.7		6.2	5.6	
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				2(1) イ(ア)	○			34.3	33.6		23.1	22.8	
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く			2(1) ア(ア) イ(ア)		○			59.3	57.5		8.9	8.6	
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ			2(1) ア(イ)		○			63.0	61.7		1.3	1.1	
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する			2(1) イ(イ)		○			42.0	42.8		14.0	13.2	
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	2(1) イ(ア)				○			36.5	32.1		22.5	24.7	
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	2(2) ア(イ) イ(ア)				○			39.3	37.0		13.9	14.2	

自校のデータを
記入しましょう。

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・
「小学校 算数」は・・・

中学校 英語

問題別集計結果

【聞くこと・読むこと・書くこと】

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			正答率(%)		無解答率(%)			
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	県	全国	自校	県	全国	自校
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			82.4	79.0		0.2	0.1	
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			67.4	64.4		0.2	0.2	
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			53.2	49.8		0.2	0.2	
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	ア						○		68.7	61.1		0.2	0.2	
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	ア						○		46.1	41.2		0.3	0.2	
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	ウ						○		57.2	54.8		0.5	0.4	
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する		○					○		58.8	56.0		0.3	0.3	
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する		○					○		69.6	64.5		0.3	0.3	
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する		ア					○		44.3	35.9		0.3	0.3	
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する		○					○		64.9	59.8		0.4	0.3	
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する		イ					○		38.5	34.7		0.7	0.7	
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する		ウ					○		58.3	56.1		0.8	0.8	
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く					ウ		○		23.7	19.5		26.7	29.3	
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる					ア		○		49.1	40.4		5.9	6.6	
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる					ア		○		30.1	20.9		9.9	10.9	
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える					ア		○		34.4	29.0		21.6	24.5	
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く					イ		○		10.0	7.4		19.3	21.4	

自校のデータを
記入しましょう。

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・

問題別集計結果

【話すこと[やり取り]・話すこと[発表]】

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			正答率(%)*			無解答率(%)*		
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り 組む 態度	県	全国 (国公立)	自校	県	全国 (国公立)	自校
1 (1)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える			ア			○			21.3	19.0		18.3	22.7	
1 (2)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、次の予定を伝える			ア			○			12.3	9.4		14.4	18.1	
1 (3)	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する			ア			○			12.3	13.4		15.5	19.4	
1 (4)	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える			ウ			○			23.5	16.1		13.7	17.8	
2	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える				ウ		○			6.6	4.2		14.8	18.8	

(* がついているところの「全国(国公立)」の値は、実施状況等を考慮した統計的補正をかけた、全国値として推定されたもの。)

自校の結果から気づいたことを書いてみましょう。

私の学校は・・・

ここに注目!!

「話すこと」の指導を行う際には次の点について自分の授業を見直してみましょう。

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定して言語活動を行っているか。
- 日常的な話題や社会的な話題を取り上げる等、題材の工夫をしているか。(中学校のみ)
- 即興で伝え合うやり取りを授業で行っているか。(中学校のみ)
- 聞いたり読んだりしたことについて、話したり書いたりするなどの領域を統合した言語活動を行っているか。
- 言語材料を言語活動と効果的に関連付けて、適切に指導しているか。



【文科省公式
YouTube/mextchannel】

「外国語教育はこう変わる!」



Ⅱ かながわの学びの充実・改善のための重点事項

教科調査結果と質問紙調査結果を総合的に分析し、次の4点に整理しました。

1 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (p. 13～)



○「児童・生徒質問紙」「学校質問紙」「教科調査」の結果から・・・

- クロス集計に着目すると、「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。

ポイント

授業の中で、学ぶ楽しさを伝えたり、児童・生徒のよい点や努力を認めたりするなど、引き続き一人ひとりの「学ぶ意欲」を高めていくことが重要です。

2 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (p. 17～)



○「教科調査」の結果から・・・

- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の設問と比較して、低い傾向にあります。しかし、無解答率(4.9%~23.1%)に着目すると、児童・生徒の80~90%程度が、解答を書こうとしています。さらに、各設問の解答類型を分析すると、解答類型3や4に課題のある児童が多くいることが分かります。

ポイント

自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒が、考えを表現する一連の過程のどこでつまづいているのかを把握し、授業を行うことが重要です。

3 授業改善の推進（主体的・対話的で深い学びの視点、指導と評価の一体化、教科等横断的な学習）（p. 25～）



○「児童・生徒質問紙」「学校質問紙」「教科調査」の結果から・・・

- 各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の取組が実施されています。また、日々の教育活動を見直しながら、学習評価を教員の指導改善等に生かしています。一方、学んだことをほかの学習につなげている児童・生徒の割合は、70%程度です。
- 国立教育政策研究所の分析によると、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会経済的背景SES（Socio-Economic Status）が低い状況にあっても、教科の平均正答率が高い傾向にあります。

ポイント

各学校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組みながら、引き続き、日々の教育活動をより充実させることが重要です。

4 地域と学校の連携・協働の推進（p. 29～）



○「児童・生徒質問紙」「学校質問紙」「教科調査」の結果から・・・

- 各学校では、地域等の外部の資源を活用しながら指導計画を作成し、教育目標等を家庭や地域と共有する割合が高まっています。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という質問に対して肯定的に回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率が高い傾向にあります。

ポイント

各学校は、引き続き、地域と教育目標等を共有し、共通の目標を持ちながら、児童・生徒が地域や社会に意識が向くような指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。

Ⅲ 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」で示した4つの項目について、教科調査や質問紙調査のデータをもとに、「学びの充実・改善のヒント」をまとめました。



1 子どもたちの学びに対する意欲の向上

【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
国語	国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか。 (児童 43、51 生徒 47、55、59)	61.3	62.9			
算数 数学		61.3	58.0	→		
英語		69.0	56.0	→		

【活用例】継続的に質問紙調査を行い、数値を記入することで、児童・生徒の変容を見ていきましょう。また、調査対象学年だけでなく、全学年で取り組んでみましょう。

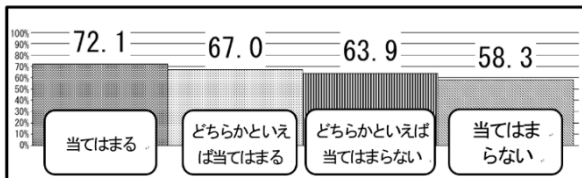


クロス集計してみると...

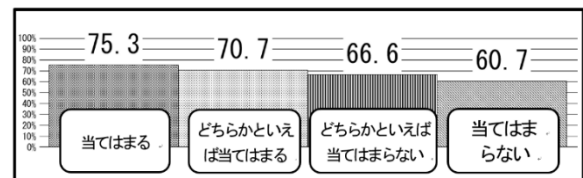
各教科の「勉強は好きですか」と小・中学校の各教科調査問題の平均正答率とのクロス集計

例えば、「国語の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」と回答している児童の小学校国語の平均正答率は、72.1%です。一方、「当てはまらない」と回答している児童の平均正答率は、58.3%です。

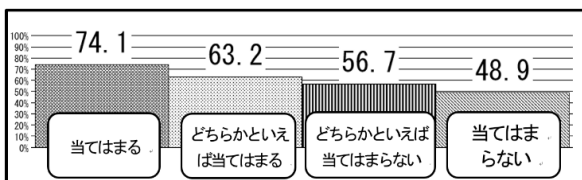
【小学校 国語】



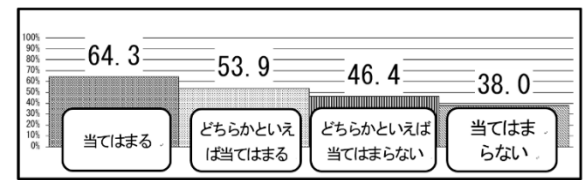
【中学校 国語】



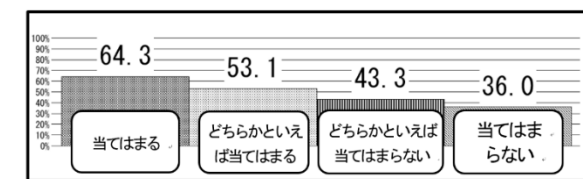
【小学校 算数】



【中学校 数学】



【中学校 英語】



【活用例】次のように、学校質問紙と児童・生徒質問紙を対比させているときは、網掛けをしている欄に、肯定的回答を示すと「予想される」児童・生徒の割合を記入しましょう。

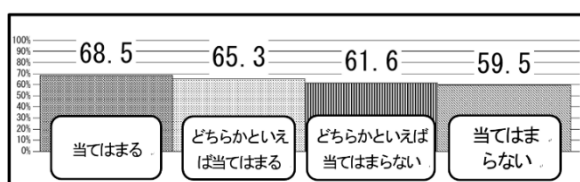
	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月 予想	月 予想
学校	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。（小・中13）	99.2	97.4			
児童 生徒	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（児童・生徒5）	88.9	86.8			

クロス集計してみると...

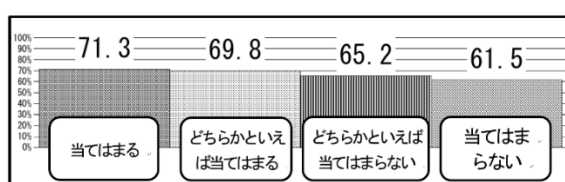
児童・生徒質問「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」と

小・中学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

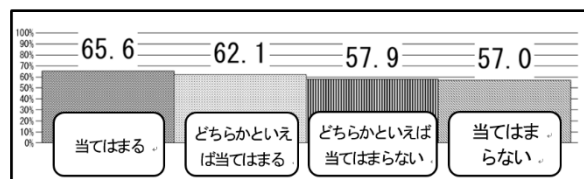
【小学校 国語】



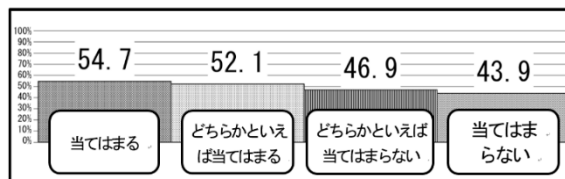
【中学校 国語】



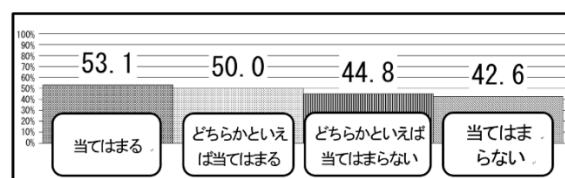
【小学校 算数】



【中学校 数学】

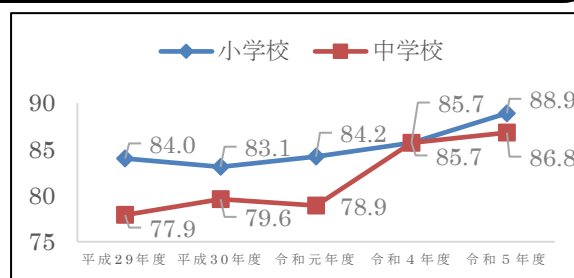


【中学校 英語】



経年変化を見ると...

児童・生徒質問紙「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の経年変化に注目すると、先生方に認められていると感じている子どもたちが年々増えていることがわかります。



- クロス集計に着目すると、「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。

授業の中で、学ぶ楽しさを伝えたり、児童・生徒のよい点や努力を認めたりするなど、引き続き一人ひとりの「学ぶ意欲」を高めていくことが重要です。

「学びに対する意欲の向上」に関する充実・改善のヒント

教科を学ぶ楽しさや魅力を伝える事例



子どもたちが教科の学習をとおして学ぶ楽しさや魅力を感じるために、どのような工夫をしていますか？

私の場合、授業を「問題解決の過程」となるようにしています。また、解決の後の振り返りやまとめのときの声かけにも配慮しています。



どのような配慮をしていますか？

授業で提示する問題は、子どもたちが「解決したい」と思えるような問題にしています。例えば、全国各地の夏の暑さを伝えるニュース映像から、自分たちの住んでいるまちのことと関連付けたり過去のデータと比較したりするなど、資料の提示の仕方を工夫しています。

また、問題を解決した後の授業のまとめで、子どもたちが「難しかったけど、このように工夫したから解決できた」「友だちのこのような言葉で、よくわかった」といった振り返りができると、教科を学ぶことが楽しいと感じ、次の学習に向かう意欲を持たせることができると思います。



児童・生徒のよい点や努力を認める事例



先生は、どのようなときに子どもたちのよい点や努力を認めていますか？

私の学校では、児童が教室の連絡黒板に、英語で授業の連絡を書いていたことを褒め、クラスに共有しました。授業で学習していることを学校生活に活かしている姿から子どもの成長を感じて、うれしくなりました。



他にはどのような例がありますか？

外国語科の授業では、間違いを恐れずに英語を使って積極的に思いを伝えようという姿勢が大切です。先日の授業では、自分の考えを理由とともに友だちに伝える活動の際、「理由を全部言えなくても大丈夫」と中間指導を行いました。その後、子どもたちは積極的に英語を使って会話をするようになりました。子どもたちの「伝えたい」という思いを大切にしています。



「子どものこえ」をもとにした授業づくりの事例



学習課題の設定では、どのような工夫をしていますか？

私の学校では、子どものこえをもとに学習課題を設定しています。子どもと教員でいっしょに学習計画を立てて授業を進めていくようにしています。



なるほど。素晴らしい活動です。子どもたちの考えを把握するために、どのような工夫をしていますか？

モジュールの時間を用いて、個人の思考の時間をとり、考えに対して、教員からあらかじめコメントするようにしています。子どもが授業前に考えをもてる工夫をしていることから、授業では自信をもって発表する姿がたくさん見られます。



ここに注目！

子どもにとって「魅力のある学校」をめざしていくために、アンケートを実施する取組があります。項目は、子どものこえに耳を傾ける、教員が自分たちの取組を振り返る、子どもたちの居場所づくり、仲間や教員との絆づくりの4つです。この取組により、不登校の解消や未然防止につながっています。

意識調査のどこに注目し取組を考える？

○先生方のとらえと、子どもたちのとらえのずれがないか見るものです。そのため、先生方は毎回の意識調査の前に、4つの質問に対する子どもの回答がそれぞれ何%になるかを予想しておきます。

質問	回答	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
ア	学校が楽しい				
イ	みんなで何かするのが楽しい				
ウ	授業に主体的に取り組んでいる				
エ	授業がよくわかる				

○「どちらかといえばあてはまる」に回答した子どもたちが次回調査時に「あてはまる」の回答になるために、どのように取組を計画・修正するかを学年全職員で検討します。



「はにい『魅力ある学校をめざして3』」令和2年9月16日（神奈川県教育委員会）

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/79292/hani171.pdf>



2 自分の考えを文章等で表現する力の向上

【教科調査問題】

	問題	小学校		中学校		自校	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
国語	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く(1二)	25.6	8.3				
	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く(4三)			51.2	19.8		
算数 数学	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く(2(4))	23.3	4.9				
	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する(7(2))			34.3	23.1		
英語	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまどまりのある文章を書く(10)			10.0	19.3		

例えば「小学校 国語」の解答類型を見ると...

他校種、他教科でも同様に、解答類型の反応率を見ることで、課題(つまずき)が把握できます。
※解答類型…各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

【小学校国語1二】 「学校の米作りの問題点と解決方法」について、 60字から100字以内で書く設問。 (正答の条件)以下の条件を満たして書いている。 条件①学校の米作りの問題点について a【川村さんの文章】のグラフから分かること b【カード④】から分かること 条件②解決方法について【カード⑤】をもとにして書いている	解答類型			反応率
	正答	1	2	
		条件①a○ 条件①b○ 条件②○		25.6
		条件①a○ 条件①b○ 条件②×		2.9
		条件①a○ 条件①b× 条件②○		19.1
		条件①a× 条件①b○ 条件②○		17.6
		条件①a○ 条件①b× 条件②×		7.8
		条件①a× 条件①b○ 条件②×		2.4
		条件①a× 条件①b× 条件②○		7.7
		条件①a○ 条件①b○ 条件②○ 字数制限×		0
		上記以外の解答		8.5
		無解答		8.3

「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書」より
神奈川県教育委員会にて作成

解答類型3と4の反応率が高くなっています。

解答類型3は、【川村さんの文章】のグラフから分かる学校の米作りの問題点は書いていますが、【カード④】から分かる問題点は書いていません。解答類型4は、【カード④】から分かる学校の米作りの問題点は書いていますが、【川村さんの文章】のグラフから分かる問題点は書いていません。

どちらか一方の「学校の米作りの問題点」を捉えることはできますが、両方の「問題点」を関係づけて捉え、書き表すことに「つまずき(課題)」があると考えられます。また、【川村さんの文章】、【カード④】それぞれから分かる学校の米作りの問題点を適切に取り上げられないことや適切に書き表せないことに「つまずき」がある児童もいると考えられます。

例えば、普段の学習における児童・生徒の適切な見取りや課題と、上記のように、学級の解答類型を重ねて分析すると、どこでつまずき、自分の考えを書き表せないかを把握する一助とすることができます。

- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の設問と比較して、低い傾向にあります。しかし、無解答率（4.9%～23.1%）に着目すると、児童・生徒の80～90%程度が、解答を書こうとしています。さらに、各設問の解答類型を分析すると、解答類型3や4に課題のある児童が多くいることが分かります。



自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒が、考えを表現する一連の過程のどこでつまづいているのかを把握し、授業を行うことが重要です。

ここに注目！



子どもたちの「自分の考えを表現するチカラ」の育成のために、[365一行日記]のフォーマットを活用いただくとともに、子どもたちへも紹介してください。

児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「自分の考えを表現するチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身に付けましょう。県教育委員会では、[365一行日記]のフォーマットをホームページに掲載しています。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

つまずきを分析しよう！



自分の考えを文章で表現する活動のときに、子どもたちは、どのような過程でつまずいていますか？

全国学力・学習状況調査の調査問題を1つ取り上げて考えてみましょう。
子どもたちがつまずいた過程の一部は、解答類型から把握できます。

教科 _____ 問題 _____

子どもたちの多くがつまずいた過程は、解答類型の「 _____ 」でした。

そこから、次のようなことがわかります。

(書き込んでみましょう)



子どもたちのつまずく原因は、どのようなことだ
と思いますか？

(書き込んでみましょう)



子どもたちのつまずきを支援し、改善を促すため
に、今後どのような取組をしていきますか？

(書き込んでみましょう)



「文章等で表現する力の向上」に関する充実・改善のヒント

【小学校 国語】「自分の考えを文章等で表現する力の育成」を目指す事例



子どもたちが自分の考えを文章で表現する力を身につけられるように、どのように指導していますか？

子どもたちが文章を一度書き終えたら終わりにせず、自分の考えが適切に表現できているかを他の人に読んでもらったり、自分で読んで、再度、書き直すようにしています。



書き直す際には、どのようなことに気をつけるように指導していますか？

まず、自分の考えが明確なのかを再考できるようにします。もし、考えが明確でなければ、情報を収集し直したり、内容を検討し直したりして、自分の考えを再検討できるようにしています。
考えが定まり、情報や内容も整理し直したら、再度、構成を意識して書き直すようにしています。子どもが、自分の考えを文章で表現できる力を身につけるには、上記のような書くプロセスを行ったり来たりしながら、学習を進めていくことが大切だと考えています。



ここに注目！

文部科学省 国立教育政策研究所が公開している「令和5年度 全国学力・学習状況調査 解説資料」の目的には、「各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立つことができるように作成」とあります。

「教科に関する調査」の各問題について、学習指導の改善・充実を図るための情報が盛り込まれていたりすべての先生が活用したりできるよう構成されています。つまりきを分析する際に、有効に活用しましょう。



■ 「令和5年度 全国学力・学習状況調査 解説資料」について



<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

【小学校 国語】「自分の考えを文章等で表現する力の育成」を目指す事例



子どもたちが自分の考えを文章で表現するために、どのような工夫をしていますか？

子どもたちの「自分の考えを表現したい」という思いを大切にすることが重要だと思います。そのためには、文章にまとめる必要性を実感できる教材を身近な生活から探すようにしています。



例えば、どのような教材ですか？

「学校生活で気になることを調べて、報告文を書く」という学習活動を行いました。ある子どもは、「学校内で起こるけがが増えていること」が気になり、養護教諭から、けがの「発生場所」や「発生件数」、「発生時間」などを聞き、それらの情報を結び付けて、グラフ等を用いながら報告文を書きました。



【中学校 国語】「自分の考えを文章等で表現する力の育成」を目指す事例



自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして書く学習では、どのような工夫をしていますか？

私は、生徒が伝えたいことを決め、根拠となる資料を集めたら、書き始める前に、意見と根拠が適切につながっているかについて、グループで助言し合う学習活動を設定しています。
生徒は、その助言をもとに、下書きを書いています。



下書きを書いた後は、どのような学習を行いますか？

書いた下書きを観点に沿って読み合い、それぞれのよい点や改善点について話し合います。

観点は、例えば、次のようなものを示します。

- ①伝えたいことにふさわしい根拠が示されているか。
- ②資料から根拠として取り出した情報が正確に書かれているか。
- ③読み手を意識した内容になっているか。

話し合ったあとは、その内容を踏まえ、各自で文章にまとめていきます。



【小学校 算数】「自分の考えを文章等で表現する力の育成」を目指す事例



子どもたちが「自分の考えを表現する力」をつけるために、どのような工夫をしていますか？

私の学校では、算数の授業で、自分の考えを書いたり説明したりするだけでなく、友だちの考えを自分の言葉で解釈して書いたり説明したりする活動を積極的に取り入れています。



授業は、どのような流れになりますか？

例えば、個人で思考したことを図や表、式、グラフなどを使って書いたり説明したりした後、他の子どもが「〇〇さんの言いたいことは・・・」といったように書いたり説明したりする活動を行っています。また、必要に応じて教師が発問や問い返しをすることをおして、子どもの表現を質的に高めるようにしています。



【中学校 数学】「自分の考えを文章等で表現する力の育成」を目指す事例



子どもたちが「自分の考えを表現する力」をつけるために、どのような工夫をしていますか？

「何について説明するのか」ということを子どもが理解できるようにしています。また、「子どもにどのようなことを書いてほしいか、説明してほしいか」を想定して、発問などをするようにしています。



具体的に、どのようなことを子どもが理解できるようにしているのですか？

問題解決の中で子どもが書いたり説明したりする場面で、それが「事柄・事実の説明」「方法・手順の説明」「理由の説明」(※)のうち、どのようなことを説明したいのか、子どもが理解できるようにしています。また、問題設定のときに、子どもにどのような説明をしてほしいかをある程度想定しておくことで、問題解決の場面で足りないところを指導し、子どもの表現をより簡潔で的確なものにできるようにしています。



(※) 令和5年度全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校数学 P7参照



【小学校 英語】学校行事と関連した外国語授業の事例



子どもたちが英語で話す力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

子どもたちが、英語を話す必然性や目的をもって取り組めるように、学習課題の設定を工夫しています。例えば、学校行事で外国人観光客にインタビューをしてみようという学習活動に取り組みました。遠足で訪れた浅草でインタビューをしてみましたが、うまくいかないことも多くあり、子どもたちなりに課題を見つけることができました。



学校行事と関連させたのですね。
遠足の後には、どのようなことを行ったのですか？

遠足での課題を整理して、修学旅行でも同じ活動に取り組むことにしました。子どもたちは、ALTを相手に練習を行ったり、アドバイスをもらったりしながら、日本を訪れる外国人観光客が日本のどんなことに興味を持っているかを質問していました。繰り返し言語活動を行うことで、子どもは自分の成長を実感できるのではないかと感じています。



【中学校 英語】ALTの強みを生かして指導する指導事例



子どもたちが、英語で自分の考えを書く力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

生徒がワクワクするような目的・場面・状況で設定しています。「書くこと」の指導では、「ALTに手紙を書く」など、書くための目的や場面、状況を設定することが大切です。ALTの強みを生かして、生徒が英語を使う必然性を生み出すことが大切です。



どのような目的・場面・状況を設定したのですか？

例えば、ALTに日本のサブカルチャーについて紹介する原稿を作成するという目的を設定しました。ALTの話から、興味や関心がどこにあるかを聞き取ります。その後、生徒は自分が書いた英文をグループで添削し合いながら質の高い原稿を作成していました。



【理科】疑問を蓄積し、考えの表現に生かす取組事例



子どもが、自分の言葉で考えをまとめる力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

学習内容と日常生活や社会との関連を子どもが意識できるようにしています。そのために、単元の内容に関連する疑問などを ICT を活用して蓄積し、クラスや学年の子どもと共有しています。また、単元末には疑問の中から各自でテーマを絞って探究する時間を設けるようにしています。



具体的には、どのように授業を行っているのですか？

子どもにはいつでも疑問を入力してもよいと伝えています。そして、実験の「予想」や「考察」の場面で疑問を振り返り、学習内容から疑問が解決できるかを考えるとともに、解決できると考えた疑問については、その理由を記入するよう促しています。例えば「なぜ炭は燃えると灰になるのか」と日常生活の中からの疑問を記入した子どもは、単元の学習を通して、「有機物」「無機物」「二酸化炭素の発生」などのキーワードを学ぶことで、「灰として残ったものは無機物で、炭の大部分を構成する炭素は、空気中の酸素と反応して二酸化炭素として空気中に放出された」と説明することができていました。



【社会】多角的に考えた自分の考えを文章等で表現する事例



子どもたちが自分の考えを表現するために、どのような工夫をしていますか？

社会科では、物事を多角的にとらえ考える授業を心掛けています。例えば、「地域に見られる生産や販売の仕事」の単元では、地域の農家やスーパーで働く方など、さまざまな職業にたずさわる人の思いや考えにふれるとともに、生産者からだけでなく消費者の考えなど、立場の異なる人の考えにも着目して考えます。



自分の考えを表現する機会をどのように設定していますか？

話し合い活動をとおして友だちの考えを知ることで、自分だけでは考えつかなかった新たな気付きを生むことができます。さらに、ふせんアプリなどを活用しながら子ども一人ひとりの意見を共有する場面や、新たな気付きを基に授業の振り返りで再度自分の考えを文章にまとめる場面など、自分の考えを表現する機会を複数設定するよう工夫しています。



3 授業改善の推進（主体的・対話的で深い学びの視点、指導と評価の一体化、教科等横断的な学習）



	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校	調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。（小・中26）	85.5	89.1		予想	予想
児童生徒	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（児童33、生徒37）	80.0	80.4			

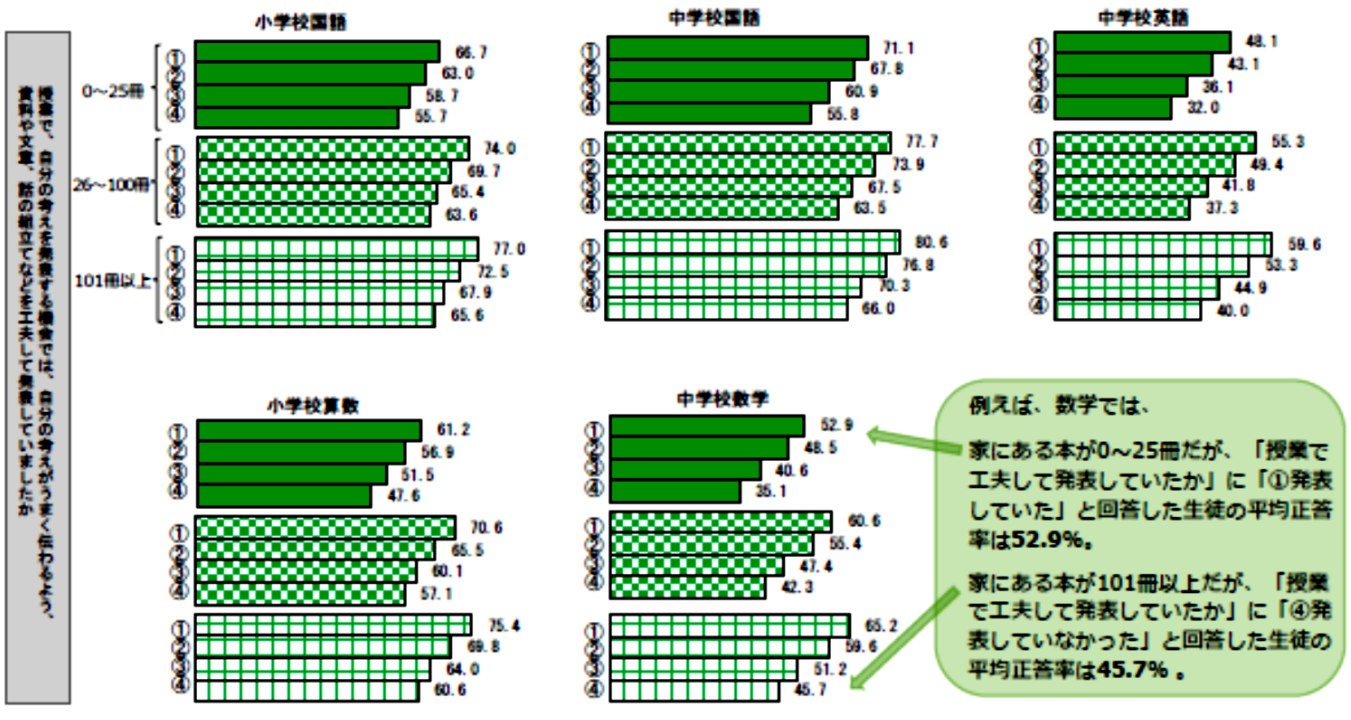
ここに注目!

家庭の社会経済的背景 SES (Socio-Economic Status) が低い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られます。しかし、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の平均正答率が高い傾向にあることを国は示しています。

三重クロス集計

【家にある本の冊数】 × 【授業で工夫して発表していたか】 × 【各教科の平均正答率】

■ 0~25冊 ■ 26~100冊 ■ 101冊以上 ①発表していた ②どちらかといえば、発表していた ③どちらかといえば、発表していなかった ④発表していなかった



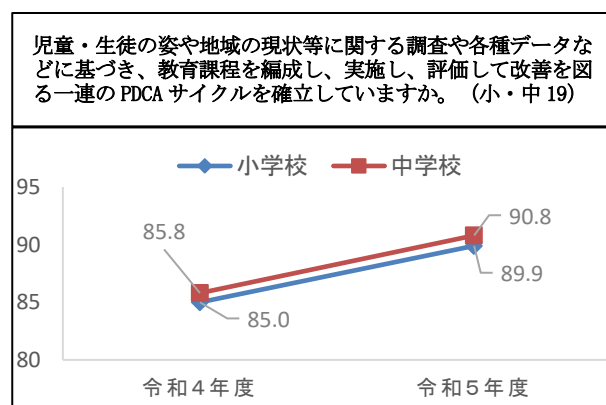
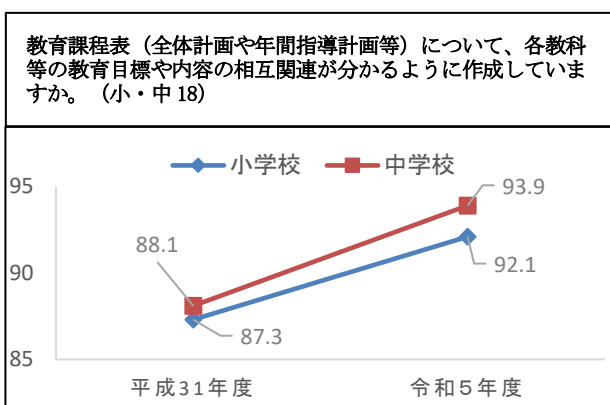
(※) 他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果（概要）p. 20

	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童・生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童・生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか。(小・中41)	85.7	96.6		予想	予想
児童生徒	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(児童37、生徒41)	76.5	69.7			

	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
学校	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。(小・中18)	92.1	93.9		予想	予想
	児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。(小・中19)	89.9	90.8			
児童生徒	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。(児童38、生徒42)	82.3	70.3			

経年変化を見ると...



- 各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の取組が実施されています。また、日々の教育活動を見直しながら、学習評価を教員の指導改善等に生かしています。一方、学んだことをほかの学習につなげている児童・生徒の割合は、70%程度です。
- 国立教育政策研究所の分析によると、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会的経済的背景(SES)が低い状況にあっても、教科の平均正答率が高い傾向にあります。

各学校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組みながら、引き続き、日々の教育活動をより充実させることが重要です。

「授業改善の推進」に関する充実・改善のヒント

「より妥当性、信頼性のある学習評価の実現に向けたポイント」を活用した事例



指導と評価の一体化に向けて、どのような取組を行っていますか？

「より妥当性、信頼性のある学習評価の実現に向けたポイント」を活用しています。



どのように活用しているのですか？

1 「十分に取組んでいる」の割合が多かった項目

6 (1) 点検・改善項目 (中学校)
教科ごとに、年度初めのオリエンテーション等で教科の目標や年間指導・評価計画等について、生徒と共有している。

(2) 実践に活用しているポイント
学習指導・評価の計画等について、生徒との共有をとおして、めざす姿の実現に向けた見直しをもつ。

(3) 効果的な取組
私の学校では、教科ごとに、年度初めのオリエンテーション等で教科の目標や年間指導・評価計画等について、生徒と共有するようにしています。
具体的には、どのように共有しているのですか？
学年集まで、その学年の授業を担当する教員からそれぞれ説明してもらいます。各教科の年間指導・評価計画は冊子にして、保護者に配付しています。また、生徒には各教科で配付して共有する取組も行っています。
なるほど、学年集会のような時間が取れない場合はどうするのですか？
年度初めの授業の中で説明する機会が多いです。授業で共有するときは、教科書いっしょに活用します。教員が作成した年間指導・評価計画をもとに、何月ごろにどのような単元を学習し、その単元の学習内容について、教科書の扉に目録を貼しながら、おまかなう取組を行います。評価計画については、単元の評価標準すべてを載せに添えます。単元の評価標準は、国立教育政策研究所の資料をもとに設定していますが、追加などで学習内容が変更になる場合は、単元集を修正するなどして、生徒にもどのような取組で評価するのかわかるような工夫をしています。年度初めには時間がないので、単元集とあるいは内容のまとまりごとに掲載している場合があります。このような取組によって、生徒が教員がめざす姿の実現に向けた見直しをもつことが期待できると考えます。

記入ポイント
さらに取組にするために……

まずは、校内研修で自校の学習指導と評価のプロセスを振り返ることをしています。また、どのように取り組んでよいか分からないことや、今後よりよくしたい取組について、ポイントや効果的な事例を参考にしています。自身の実践を振り返る欄もあるので、記入しながら、今後に向けて考えることができます。



教科等横断的な取組事例



教科等横断的な授業づくりでは、どのような取組を行っていますか？

各教科等のおおまかな年間計画を一覧にしたカレンダーを作成し、どの時期にどのような学習がされているか教科等横断的に「可視化」できるようにしています。



作成したカレンダーは、どのように活用していますか？

職員室やろう下に掲示することで、いつでも誰でも確認できるようにしています。また、保護者や地域のみなさんにも、学校ホームページや学校運営協議会等を活用して積極的に発信しています。



教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	なんていおうかな	わけきはなそう	こんなことがあったよ	しらせたいな見せたいな	ききたいなともだちのほなし	でがめでしらせよう	いいこといっぱい1年生					
算数		ぶんをつくらう	おおきくなった	ききたいなともだちのほなし	ともだちのことをしらせよう							これはなんでしょう
生活	がっこうだいすき	【1年生のテーマ】季節ごとの自然と関わり、生き物を見つけ、季節の変化を感じる。 いきものをかんさつしよう・育てよう・せわしよう。(あきがお、むし) 入学式の花をそだてよう。(チューリップ)										
地域	下校付き添いボランティア	地域のひととのふれあい公園散策			秋のおもちゃ作り2H				番遊び2H			1年間のまとめ3H
特活	1年生を迎える会	なかよし集会			観劇清掃							1年生を迎える準備
道徳	うまれたてのいのち		つぼめ									6年生を送る会
音楽		校歌		うみ					はるなつあきふゆ			ハムスターの赤ちゃん
図工									あきがおのクリスマスリース			
体育							表現					

ここに注目!

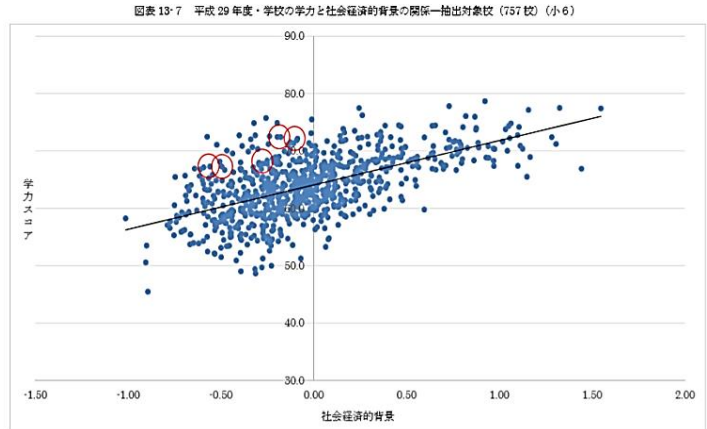
【平成 30 年度、令和 4 年度詳細分析資料より再々掲】

調査結果活用の着眼点 効果のある学校を取組より

平成 29 年度保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究

(お茶の水女子大学)

この調査研究によると、子どもの家庭背景に起因する学力の不平等が、統計的に予測される程度に比べて小さい、あるいは予測値よりも上回っている学校（効果のある学校）（右図）において、共通してみられる取組の一つに、各学校での全国学力・学習状況調査の結果の活用が挙げられています。（下図）



<平成29年度調査で特徴的に見られた点>

高い効果を上げている学校が、共通して実施している効果的な取組

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発、一人も見逃さない個別指導
(例:放課後や昼休みなどに個別に呼んで手厚くきめ細やかに指導。)
- 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組
(例:面倒見の良いベテラン教師と学年を組む。初任者や若手教師の研修機会を生かして全校教師が学び合う。)
- 小中一貫教育による一貫した学習の構え
(例:小中で家庭学習の方法, 学習ルールや授業スタイルを統一。話し合いや書く力, 読書習慣・言語指導の重点を共有。)
- 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進
(例:子供の名前を出しながら授業研究を行う。考えを伝え合うための支援や場の工夫。)
- 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携
(例:地域の一員として, 防災活動に取り組む。自治体でキャリア教育を推進。地域人材リストの作成。)
- 学力調査の分析・活用による児童生徒一人ひとりの学力形成
(例:一人一人の子供の学習状況に着目。前年の学習定着の課題を教師で共有, 授業改善に活用する。)

学力状況調査結果とその分析については、教育委員会の主導により、各学校で調査結果の分析や課題を明確にし、授業改善の重点項目としたり、学校だよりやホームページ等で公表して、地域や保護者に説明したりする等の取り組みも多く見られた。前回調査と同様、学校の平均点等の結果には振り回されず、課題を見出すことに活用しているが、それは、平成 25 年報告で挙げた、学校ごとの課題や弱点に応じて対策を講じることよりは、一人一人の子供の学習状況に着目したり、前の年の学習定着の課題を教師で共有したり授業改善に生かしたりする姿勢が見られた。また、質問紙調査の結果についての注目はこの学校でも高く、学校評価や課題改善に取り入れる様子が多く見られ、特に「楽しく学校に通っている」「先生たちはよく話を聞いてくれる」等の学校への満足度や、「自分にはいいところがある」といった自尊感情等について着目し数値目標を掲げている学校もあった。

(後略～)

同研究 p.131 第 14 章 高い成果を上げている学校 事例研究より 抜粋

調査結果の活用における着眼点

- 学校の平均正答率とともに、一人ひとりの児童・生徒の学習状況に着目する。
- 学習定着の課題を教職員全員で共有する。
- 児童・生徒質問紙や学校質問紙に着目し、学力を総合的に捉える。



4 地域と学校が連携・協働した教育活動の推進

【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
学校	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。 (小・中 20)	88.7	77.5	
学校	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。(小 71、中 79)	84.7	81.8	

【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

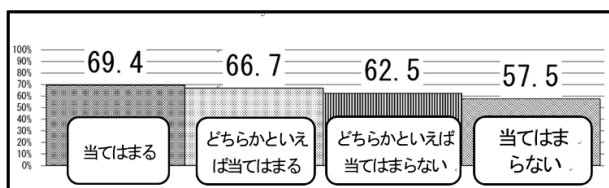
	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
児童 生徒	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(児童 26、生徒 30)	76.5	60.8			

クロス集計してみると...

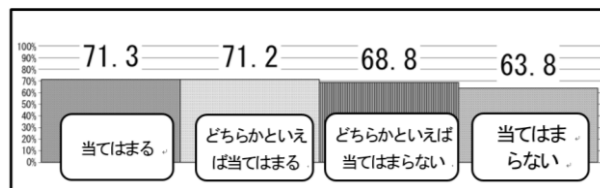
児童・生徒質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」と

小・中学校の各教科問題の平均正答率とのクロス集計

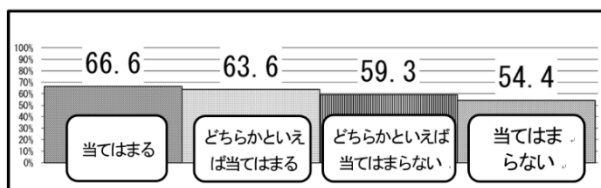
【小学校 国語】



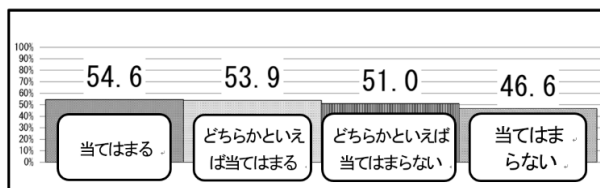
【中学校 国語】



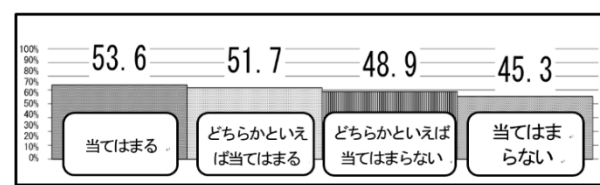
【小学校 算数】



【中学校 数学】

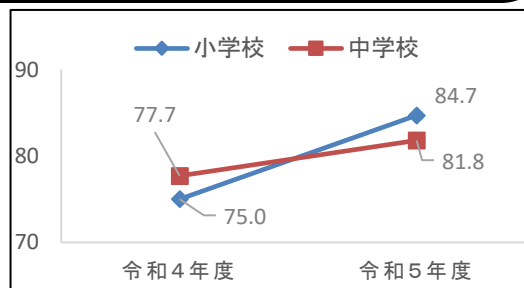


【中学校 英語】



経年変化を見ると...

学校質問紙「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。」の経年変化に注目すると、昨年度よりも高まっていることが分かります。



- ▶ 各学校では、地域等の外部の資源を活用しながら指導計画を作成し、教育目標等を家庭や地域と共有する割合が高まっています。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という質問に対して肯定的に回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率が高い傾向にあります。



各学校は、引き続き、地域と教育目標等を共有し、共通の目標を持ちながら、児童・生徒が地域や社会に意識が向くような指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。

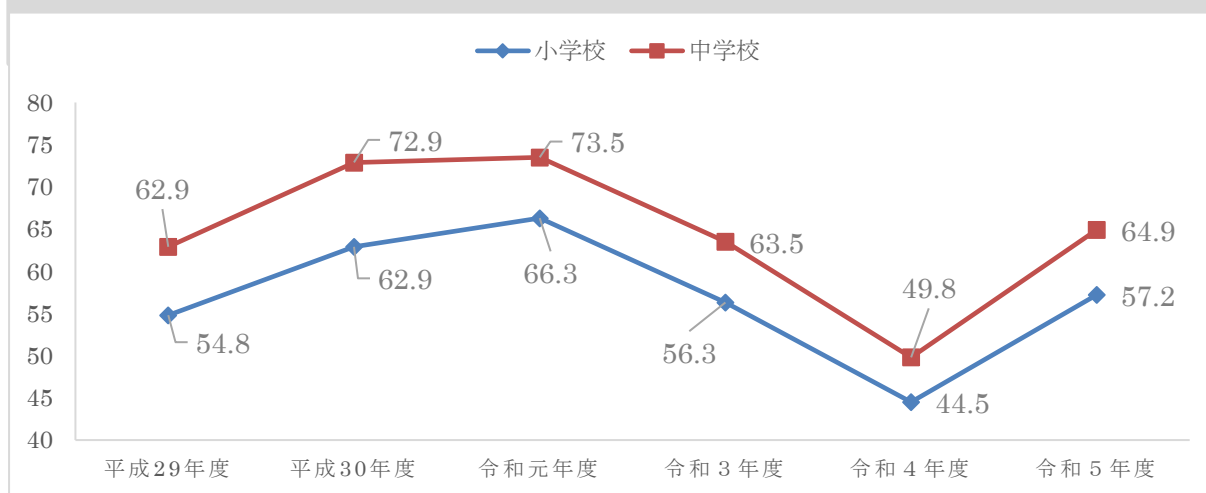
ここに注目！

神奈川県では、9年間の教育活動を通して異年齢を含めた多くの仲間たちと関わり、多様性を認め合う活動の中で、他者を尊重し、思いやる力をはぐくむことを「めざす小中一貫教育のすがた」のひとつとして掲げています。小・中学校におけるそれぞれの発達の段階に応じた「めざす子どもの姿」をそれに関わるすべての人（教職員、保護者、地域の方）が共有し、9年間を見通した教育を行うことが重要です。

昨年度までは、コロナ禍の影響か、近隣の小・中学校で、教育課程に関する共通の取組を行うことが減少傾向でしたが、徐々に回復しつつあります。

学校質問紙 小 67 中 75

前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



■小中一貫教育の推進について



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

地域と学校が連携・協働した学習支援の事例



指導計画の作成に当たって、学校はどのような工夫をしていますか？

指導計画に地域の人材や地域にある施設等、子どもたちの学習活動に効果的に組み合わせています。



どのように組み合わせているのですか？

例えば、総合的な学習の時間です。地域の博物館や企業を活用して指導計画を作成し、子どもたちが収集した情報や調査結果を整理して発信する学習活動が考えられます。また、地域の人材を活用し、子どもたちの学習支援に積極的に取り組んでいる学校もあります。算数の学習に地域の方が入り、子どもが自力解決をする際に支援を行ったり、地域のボランティア団体が読み聞かせを行ったりしている学校もあります。地域の歴史を学ぶ学習でも、地域の方が講師となり、地域の伝統行事を体験する取組もあります。



地域学校協働活動の事例



地域と学校が連携して教育活動を進めていくために、どのような工夫がありますか？

各学年の年間指導計画を学校運営協議会等で共有し、学習に必要な人材や地域の施設等との連絡、調整を地域コーディネーターが担っている事例があります。



学校のニーズに合わせて、地域コーディネーター（地域学校協働推進員）が地域（地域学校協働本部）に働きかけるのですね。どのような事例がありますか。



例えば、生活科の学習で、コーディネーターが地域に呼びかけて人材を集め、地域の方から昔遊びを教わったり、まち探検で地域の方が子どもたちの安全を見守ったりしています。中学校の職業体験や職業講話では、コーディネーターが地域で活躍している方を学校に紹介している取組もあります。地域と学校が連携・協働していくためには、学校の教育目標や教育活動を地域と共有し、共通の目標やビジョンをもちながら、子どもたちの学びを地域で支えていくことが大切です。そのために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動を一体的に進める取組やコーディネーターの存在が重要です。



保護者や地域のみなさんと話し合ってみましょう！

お子さんが通う学校、あるいは、お住まいの地域の学校の調査結果（教科調査・質問紙調査）について、どのようなところに注目しましたか。



（注目した項目やその理由を書き込みましょう）

今回の調査結果から、どのような点を重点的に取り組んでいくとよいと思いますか。



（注目した項目やその理由を書き込みましょう）

調査結果を、今後の教育活動の中で、どのように活用していくことができそうですか。



（今後の活用について考えたことを書き込みましょう）

ここに注目！

地域のみなさんと本資料を活用するにあたっては、次の動画も参考にしてください。

■ 「東三鷹学園CS委員会によるCS委員と子どもの熟議」



<https://www.youtube.com/watch?v=7TngnPLGkaA>



■ NITS 校内研修シリーズ No. 92

「コミュニティ・マネジメント～地域との連携・協働を進める視点～」



<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/092.html>



<参考情報>

神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村教育委員会がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。



<全国学力・学習状況調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用（H21～R3）

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実に資する際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。



<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

■学校運営・教育指導の重点

本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」に基づき、めざすべき人間像「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会と関わる力」の育成に向け、各学校において、重点的に取り組む事項を整理した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakkounei/juten.html>

■学習評価

学習指導要領に基づき、各学校がカリキュラム・マネジメントを進めていく中で、教育活動の充実・改善のために、より信頼性・妥当性のある学習評価にしていくことができるよう、学習評価資料集、授業づくりの道すじ、児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット、活用ガイドを作成した。



<カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料（小学校、中学校）>

<学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ>

<児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット>

<「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料の活用ガイド」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/index.html>

■かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。



<必携 かながわの学びづくり>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/hikkeikanagawa.html>



<かながわ学びづくり推進地域の取組について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/torikumi/toppupeji.html>

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。



<かながわの学びづくりプラン>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/puran/toppu.html>

■自学自習の習慣づくりのための学習教材

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校5年生が、自学自習の習慣をつくったり、国語や算数の基礎的・基本的な知識や技能を自分で身に付けたりすることができるように学習教材を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/jigakujiishu.html>

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。



<Let's challenge!課題解決教材>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/kadaikaiketsu/gaiyou.html>

■ICTを活用した学びづくりのための手引き（小・中学校）

各小・中学校において、ICTを活用した教育活動を進めるにあたっての留意事項や具体的な活用方法などを取りまとめた「手引き」を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/ict.html>

■キャリア教育

児童・生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を推進する、小・中学校教員向けの指導資料を作成した。



<かながわキャリア教育指導資料>

<かながわ版キャリアパスポート>

<キャリア・パスポートの効果的な引き継ぎに向けて>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537614/kyariakyouiku.html>

■小中一貫教育の推進について（H27～）

義務教育9年間を通して児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」を育む小中一貫教育を推進する。



<小中一貫教育の推進について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/komisuku.html>

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

すべての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川県で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。



<自己肯定感を高めるための支援プログラム>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。



<かながわ元気な学校づくり通信「はにい」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/hanii.html>



<かながわ「いのちの授業」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/index.html>

■教室に行こう（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載する。

県内の幼・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。



<https://www.kanaloco.jp/tag/939>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。



<子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/gakkyukeiei-point.html>

■その他関連資料



<インクルーシブな学校づくり Ver. 3.0>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/r01kankoubutu.html>



<小・中学校における政治的教養を育む教育>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seijitekikyoyou/gaiyou.html>



<わたくしたちの生活と進路>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/watashin.html>



<手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shuwa/refuretto.html>



<児童・生徒指導ハンドブック(小・中学校版)>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/seitosidou-handbook.html>



<神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kanamonkou.html>



<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/h25kankoubutu.html>



<いじめ防止対策を推進するための申し合わせ事項>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/mousiawasejikou.html>



<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（令和3年3月版）>

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/shienkyouiku.html>



<外国につながるの児童・生徒への指導・支援の手引き>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f420361/index.html>



<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/index.html>